



北海道バスケットボール協会  
指導者育成専門委員会  
2015/02/02(月)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 162

## 「第45回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会

### 北海道予選会を終えて」

札幌山の手高等学校  
神田 英基

今大会におきまして協会の皆様、小樽地区バスケットボール協会、また各高校生部員のご協力頂き無事終えたことに感謝しています。

さて、今回このような TACTICS に係われたということで、僭越ながら我がチームにおける今大会のゲーム分析及び改善点、そして全国大会へ向けての事を含み報告させて頂きたいと思います。

今大会、初戦の相手は帯広大谷高校でした。1Q から山の手はディフェンスでプレッシャーをかけ、相手のミス誘い、ボールが止まらないバスケットを展開することができました。更にオフェンスリバウンドもタイミング良くとることができた試合だと思います。攻めあぐんでいるときには、キャプテンでもある#4 齋藤がシュートまで結びつけ、ディフェンスではスティールやチャージングを取るなど活躍していました。更に#5 佐藤のハイポストでの得点や#15 久米のゴール下での得点が多く見られました。しかし反省点もあります。ガード陣がドリブルで抜かれる場面が多いこと、そしてローテーションまで係われないでいること。スクリーンに対してファイティングスルーが遅れてしい、シュートチェックが出来ていないこと。ルーズボールに対してのフォローとなる者がいないことなど、様々ですが修正しなければいけないことが多く見られました。

3回戦では札幌東商業高校との対戦となりました。1Q から東商業高校はオールコートでプレスをしかけてきました。そんな中、山の手は#6 西尾の3P や#5 佐藤のゴール下の得点、#7 南部のドライブなどで凌いでいましたが、東商業高校のトランジションが速くまた、オフェンスリバウンド(11個)やルーズボールを数多く取られ、ボックスアウトの徹底ができないまま試合が流れていきました。しかし次第に山の手はディフェンスのプレッシャーから相手のミス誘い、ブレイクにつなげ得点に結びつけていましたが、山の手ミスが目立つ試合でもありました。特にブレイク・アウトナンバーでのパスミス、インサイドに入れるパスミス、ドライブやペネトレイトを許しすぎる等の反省はあります。また相手に数多く、オフェンスリバウンドを許したのははじめてかもしれません。それだけボールに対する執着心が劣っていたと深く反省した試合となりました。

準決勝では海星学院高校との対戦でした。1Q から海星学院高校のディフェンスのプレッシャーが激しく、一進一退の緊迫した試合となりました。山の手は中々得点が伸びずにはいましたが、#5 佐藤のハイポストのプレーをきっかけにディフェンスを粘り相手のミスを誘うことができました。また、#4 齋藤と#5 佐藤のコンビネーションプレーや、リバウンドルーズボールからブレイクなどでリズムが良くなり、止まらないバスケットが次第

に出来るようになりました。しかし課題も多く残りました。3P が少ないこと、ファーストコンタクトの弱さ、ヘルプローテーションの遅さ、スクリーンプレーへの対応、相手エースへのプレッシャーなどこれからのやるべきことがはっきりと示した試合となりました。

決勝はインターハイを共に出場した旭川藤女子高校との試合となりました。山の手は1Q からプレッシャーをかけ続け、相手のミスを誘い、良いディフェンスができていたと思います。山の手は今までの試合の反省を活かし、オフェンスリバウンド（18本）やルーズボールに徹し、得点につながられました。またどこからでも得点ができるという強みがありますから、3P（13本）といった得点の取り方ができた試合となりました。反省点ももちろんあります。旭川藤女子高校はミスが少なく（10個）それに対し山の手は（13個）あります。やはりディフェンスのプレッシャーがない時でのパスミスや、アウトナンバーでのパスミスが目立ちます。さらにミスの後のディフェンスやクローズアウトで3P を打たれる場面、ダイナミポジション、ヘルプポジションの悪さが目立った試合でもありました。

※ミス・リバウンド等の本数は自チームのスコアを参考にしました。

今大会を振り返ってみると、一試合からの反省点を次の試合に活かすという行動はできていると思います。ミーティングの中での確認事項や注意点など、選手はやるべきことが明確に理解し、自らの行動で動いていると思います。しかし、山の手試合を見てもわかる通り、ミスの仕方が悪いということが挙げられます。イージーミス、ディフェンスのプレッシャーがないところでのパスミスが目立ちます。特に速い展開の中でのパスミスが非常に多く、ビジョンの関係でスペースやディフェンダーを見落としている状況が多いと思います。「やめる」という技術を持たなくてはいけませんし、先プレーを一つ増やさなければいけないと思います。確かに止まらないバスケットを展開していく上では、ミスの確立が増えます。しかし、このようなミスを少なくすることがこれからの全国大会に必要な不可欠だと思います。また大切なことはミスの後何をしているか、ハリーバックができているのか、またアウトナンバーに対してのディフェンスでプレッシャーをかけているのかなど、あきらめないディフェンスを身につけなければなりません。全国大会に向けてこの大会の反省点を活かし、選手共々練習に弾みをつけてやって行きたいと思っています。

現在の山の手高校を見て

現在のチームは、例年に比べてもシュート力が高いということがあげられます。ミドルシュート、3P の確立が高く、近年を見ても高い位置にいると思います。それもシュートセレクションが比較的良く、バスケットをしっかりと作れているチームだと思います。山の手バスケットは止まらないバスケットを目指しており、常にボールが動きコンビネーションを展開しようとしています。アウトサイドはもちろん、インサイドのコンビネーションが毎年素晴らしいものがあると思います。オフェンスのほとんどはフリーランスで行い、どの選手もアウトサイドシュートを持っており、どこからでもシュートが狙えるのも強みだと思います。さらにディフェンスでは常にプレッシャーをかけ、仕掛けるディフェンスが出来ていると思います。相手にスキを見せずに一線目のプレッシャーから、ヘッジやヘルプ、ローテーションといったことが素早くこなしていると思います。さらに伝統でもあるリバウンドルーズボールが強いということが挙げられると思います。

そして、メンタル面では、全国大会で勝つという明確な目標があるため、甘えや妥協が少ないチームであることも確かです。1年生から3年生までコミュニケーション能力も高く、選手同士の会話も常にありプレーに対しても意見やポイントなど伝えるという技術も持っています。3年生を中心に気づいたことは言葉にして行動するように努め、互いに高

め合い、技術の向上を目指しています。また、練習での用意や片付けに関しても気づいた者がやることで多く、気づきという点では広がると思いますし、チームワークにおいても高められると思います。

日々の練習の中で一番気にしなければならないのが、指導者がいないときの練習です。会議や外勤等で不在の時、山の手で言うと上島氏が練習に来ていない時です。選手だけでの練習を組み立てて行わなければなりません。山の手では、キャプテンが指示を出しつつ選手達と共に、練習メニューを組み立て、課題を見つけ、互いに励まし合い必要なことは伝えるという行動が出来ます。指導者はできるだけ選手といる時間を増やさなければいけないと思っています。会話が出来るくらい体育館にいたいものです。選手と長くいればいほど、何かしら見えてくるものがありますし、日常生活、生徒としての学校生活についても把握できます。山の手ではその生徒の担任や授業を持たない限り、練習以外で顔を合わせる機会がほとんどありませんので、練習前や後に会話を持ちたいものです。生徒・選手と過ごす時間を大切にすることで信頼関係が深くなり、また選手としての器が大きく成長していくと思います。バスケットボールの知識はもちろん、思いやりや助け合い、感謝することが身に付いていくと思っています。また学ぼうとする姿勢が身に付き、自律心が芽生えたときには飛躍的にその選手は上達して行きます。困難をものともせず、自分で解決する能力が高まり、知識を得て自分自信のことはもちろん、他人を助け活躍していきます。高校生で学ぶことはたくさんありますが、卒業した後、自分自身でやるということを身につけてしまえばどんな環境に行っても貢献できますし、バスケットボール以外のことでも努力し困難に立ち向かい解決していくと思います。バスケットボールの技術はもちろんですが、社会で生きていくための力も成長させて行きたいと思っています。

拙い文章ではありましたが、TACTICSに関わらせて頂いた事に感謝いたします。